

今朝春三組盆

遠 14
2685





春目

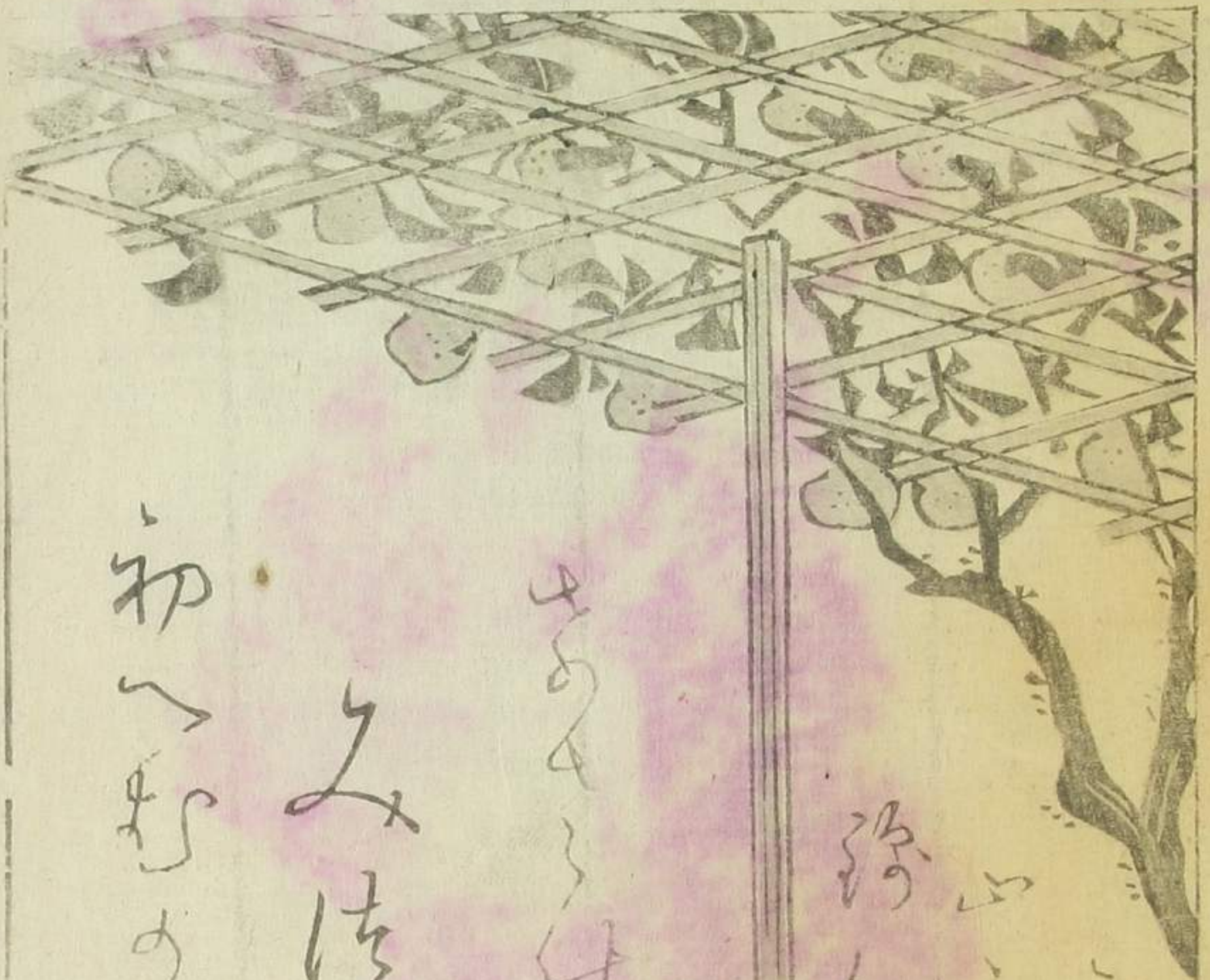
二朝

壬申

春

初編上



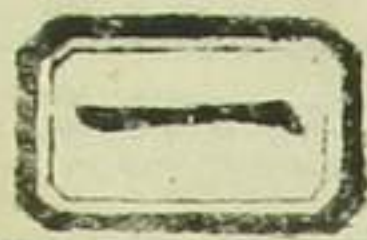


こおつて日影さく
さくさくさくさく
さくさくさくさく
さくさくさくさく

さあさあさあさあ

ふはくさくさく

初はむの上かき吉せん



世も一新の形勢なるとや。義政好む古茶器も。結句賞美
も新物も直打と譲る流行變化されば劇場も近松出雲が
老舗も經久新狂言が御意ふかふや大入の賣切札を
撰すくも。業も賢き三遊亭此理とあるとつて。昔齋の
舊を廢し。自作は落とまりぐの。樽高座の口写を例の合巻
の翻終一が口調ハ輕一筆重一。意何なるて詞をたゞ
彼業平が歌め似ねど春やむの。乃此春の新版の
魁小梅に因の櫻木一先速疾く梓にちるん

明治五申春

山々亭有人記









あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの

あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの



あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの

あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの
あつちの
ういの



あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ



あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ
あやふ

あやふ

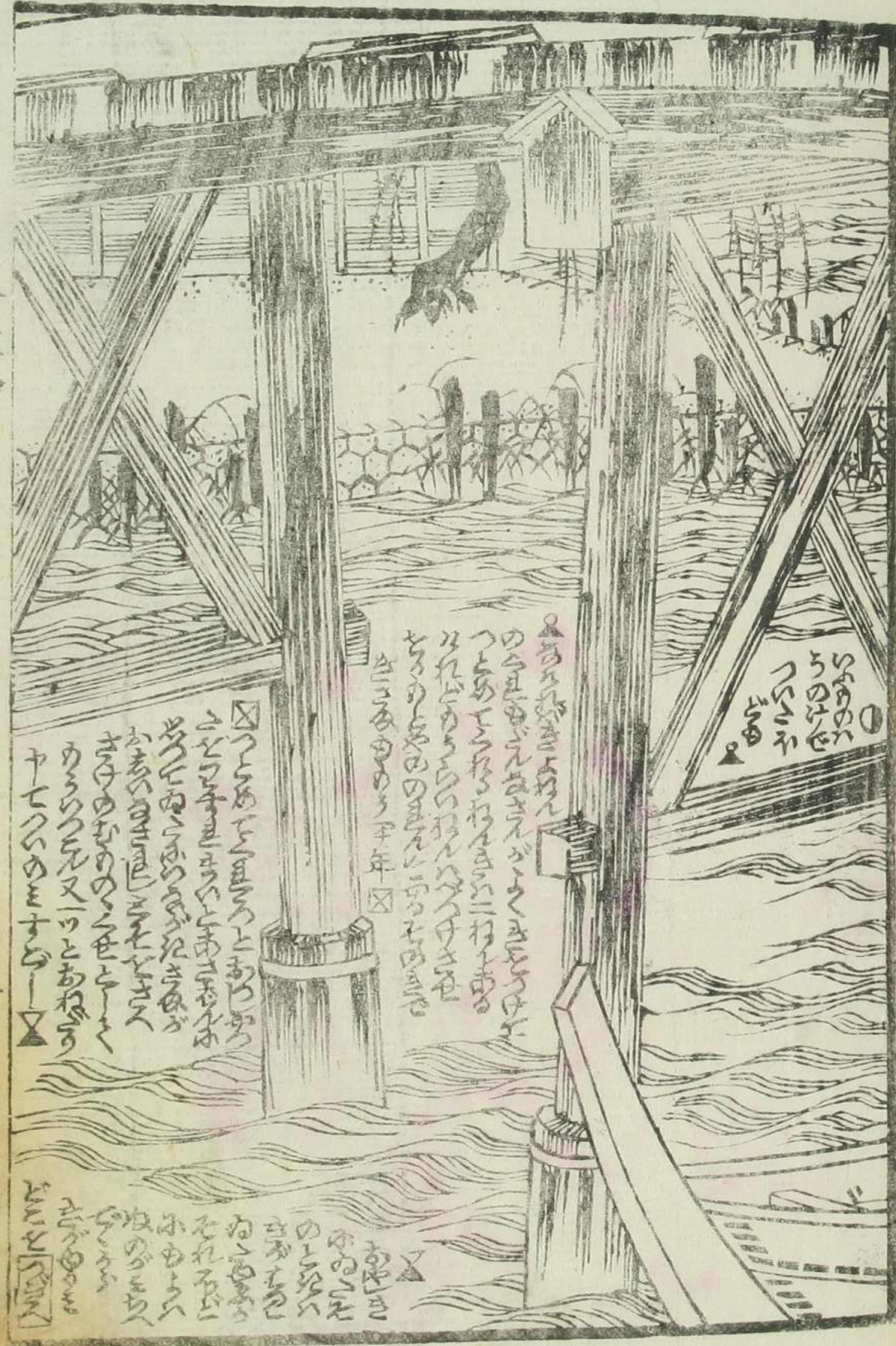
あやふ



二月十五



二月十五





松飾徳若譚

五編 六編 七編

假名垣魯文作
孟 奇 芳 虎 画

今朝春三組盃

二編 三編

山々亭 有人補綴
三遊亭 田朝作話
錦朝楼 芳虎画

いそは竹即要

初編 十編

山々亭 有人作
歌川周重画

繪本太豊記

二編 三編

孟齋 芳 虎 画 作

地本問屋 両國廣小路 加賀屋吉兵衛板

三遊亭圓朝作

山亭有人綴
錦朝樓芳虎画

青盛堂壽梓

一ツ組
戎四



初編下





上巻の... (Text at the top of the illustration)

... (Text on the right side of the illustration)

... (Text on the left side of the illustration)

... (Text at the bottom of the illustration)

系鞠さく
 多入補
 芳上志

初編下

五申
 芳徳
 青葉又序



この世にあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを

この世にあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを

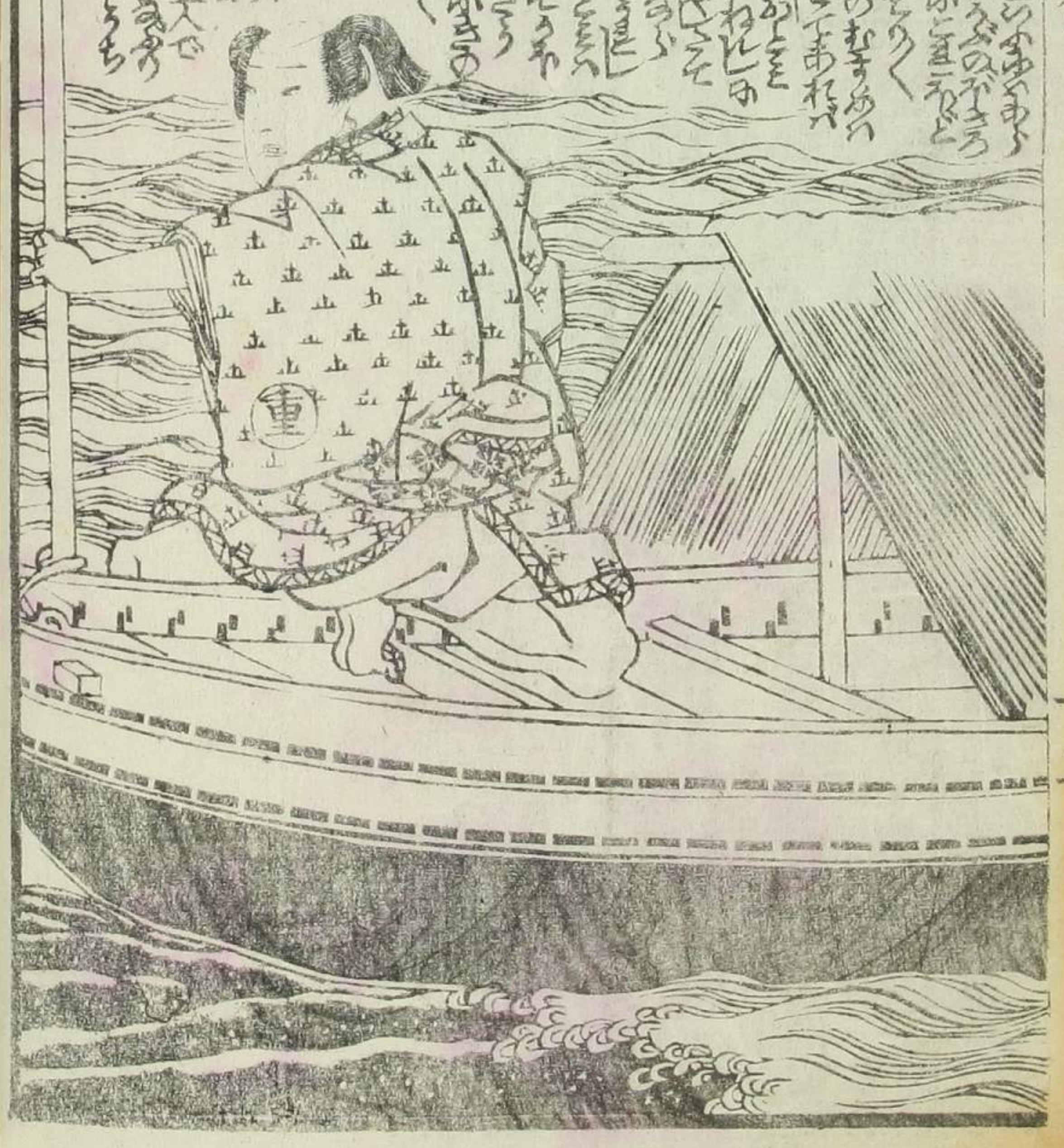


この世にあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを

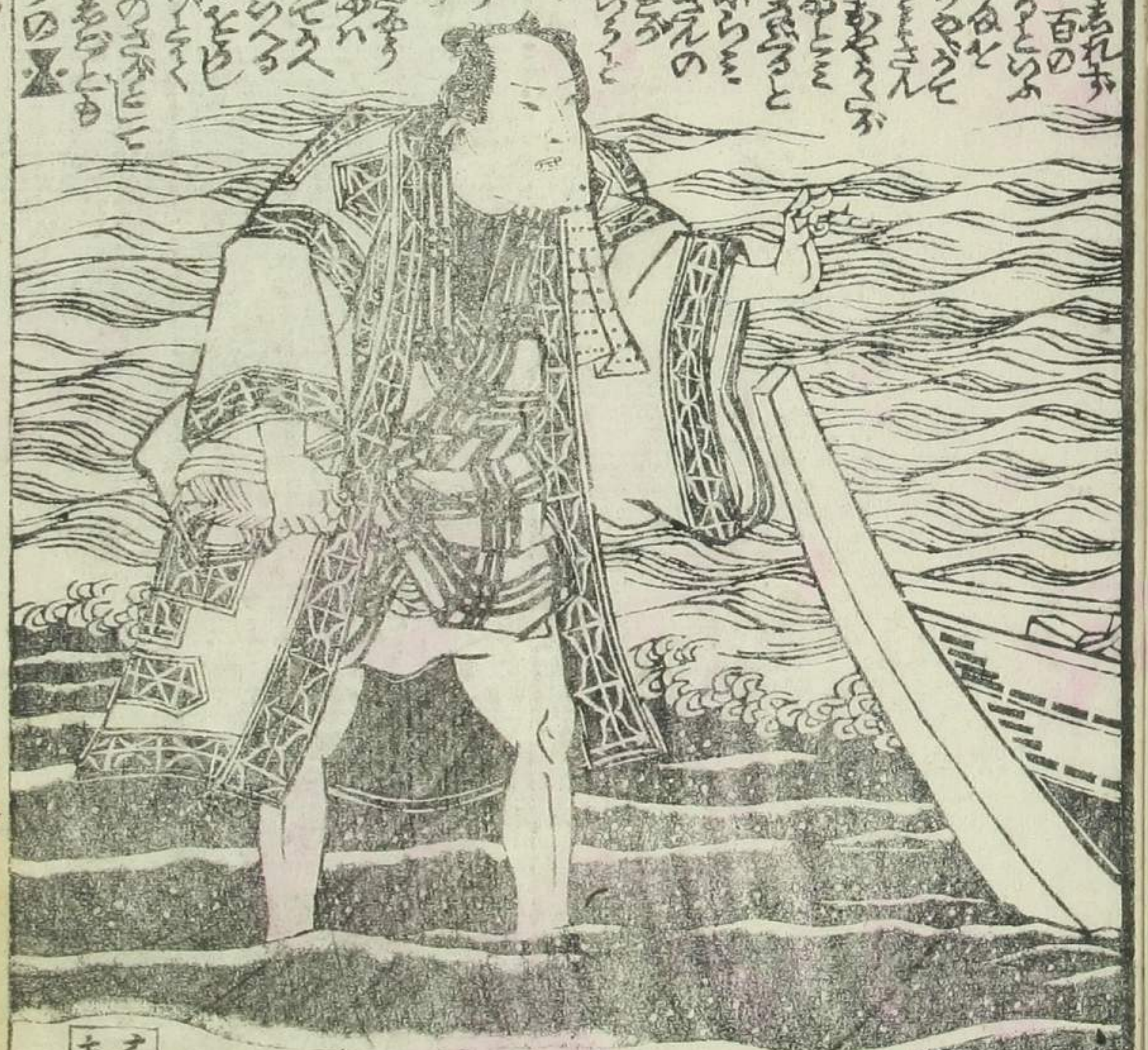


この世にあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを
しるはれしにあらざらんことを

聖徳太子の御功徳ありては
 國の富強を成し民を安んじ
 らしめし事多し其の由り
 は神代卷の御事記に記さ
 れし事なり其の御功徳
 ありては國の富強を成し
 民を安んじらしめし事多
 し其の由りは神代卷の御
 事記に記されし事なり



聖徳太子の御功徳ありては
 國の富強を成し民を安んじ
 らしめし事多し其の由り
 は神代卷の御事記に記さ
 れし事なり其の御功徳
 ありては國の富強を成し
 民を安んじらしめし事多
 し其の由りは神代卷の御
 事記に記されし事なり



聖徳太子の御功徳ありては
 國の富強を成し民を安んじ
 らしめし事多し其の由り
 は神代卷の御事記に記さ
 れし事なり其の御功徳
 ありては國の富強を成し
 民を安んじらしめし事多
 し其の由りは神代卷の御
 事記に記されし事なり

三十一



Handwritten text in Latin script at the top of the illustration, including the word 'Oportet'.

Handwritten text in Latin script at the bottom of the illustration, including the words 'Hic est' and 'inquit'.



Handwritten text in Latin script at the top of the illustration, including the words 'Nunc' and 'est'.

Handwritten text in Latin script at the bottom of the illustration, including the words 'Et' and 'tunc'.



於富のち若草と

ふちまは
れとあま
きりて
のせと
うな
の
き

あまの
うら
さ

あまの
うら
さ
あまの
うら
さ
あまの
うら
さ

本文
えうの
あま
す



紀伊國屋伊之助

あまの
うら
さ
あまの
うら
さ
あまの
うら
さ
あまの
うら
さ
あまの
うら
さ

あまの
うら
さ
あまの
うら
さ
あまの
うら
さ
あまの
うら
さ

三月五日

三月五日

三月五日

大野惣兵衛
 假名
 七變
 伽羅
 大令
 圓朝作
 有人補
 芳虎画
 文來書
 大野惣兵衛
 假名
 七變
 伽羅
 大令
 圓朝作
 有人補
 芳虎画



新增補西國奇談

止編 為永春水作
 止編 孟齋芳虎画

薄緑娘白浪

九編 假名垣魯文作
 十編 錦朝樓芳虎画

隅田川月と梅若

五編 柳亭種彦作
 六編 山亭有人編次
 孟齋芳虎画

繪本太閤記

三編 孟齋芳虎画作

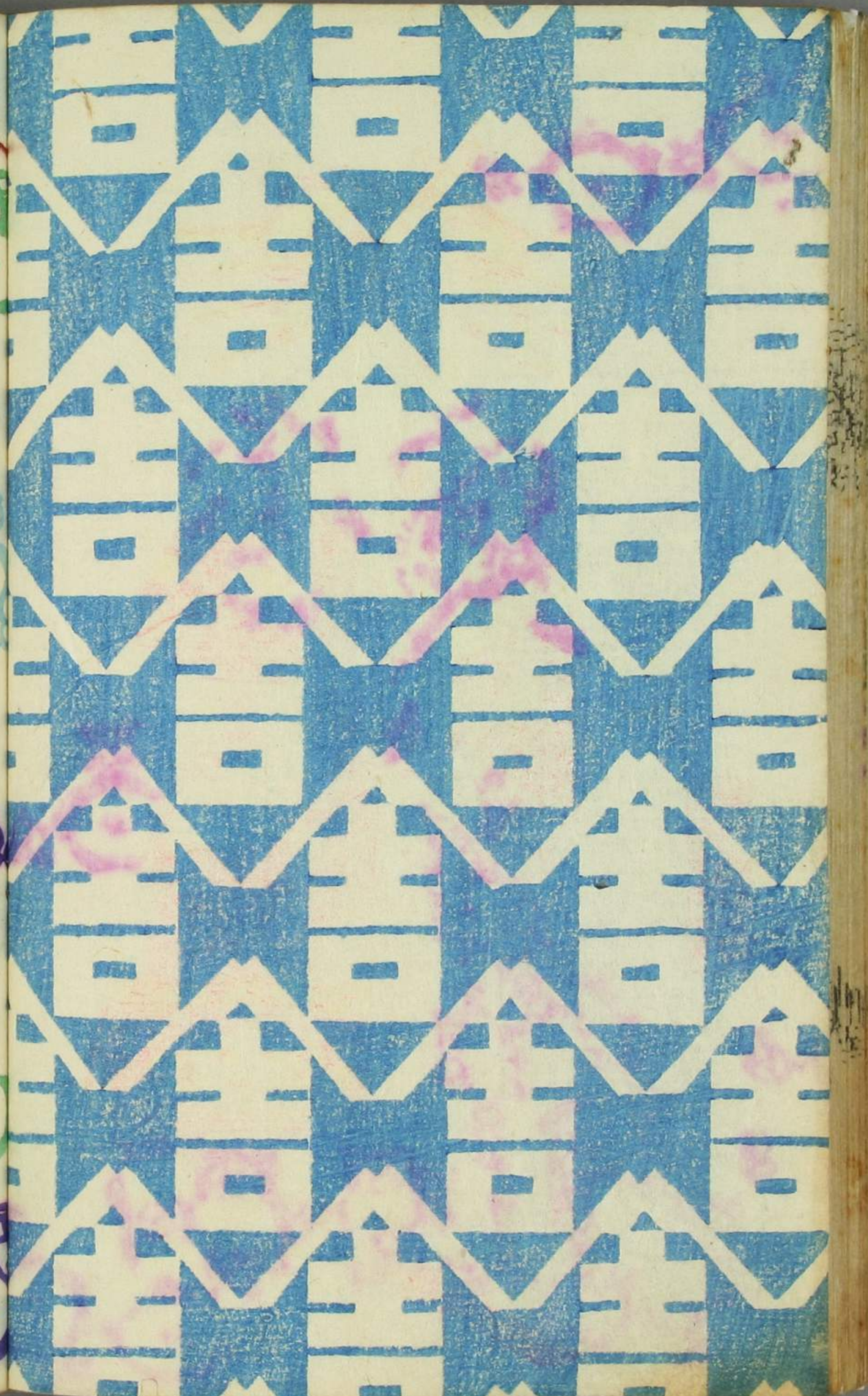
地本問屋 西國廣小路 加賀屋吉兵衛板



美
子
の

美
子
の

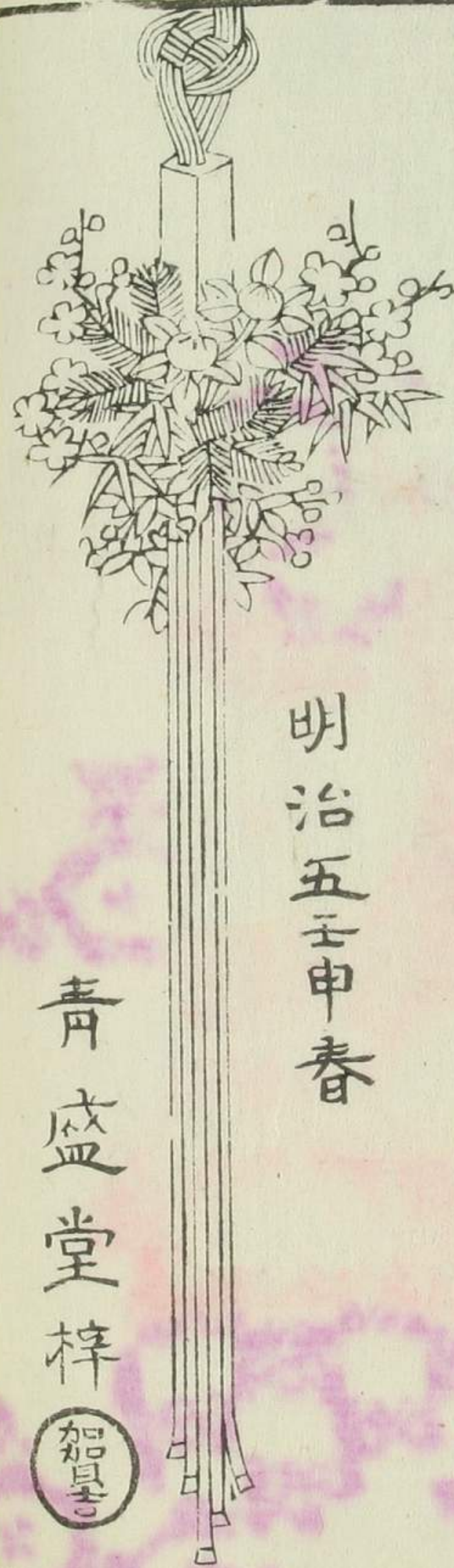
二編上



今朝春三組杯貳編上

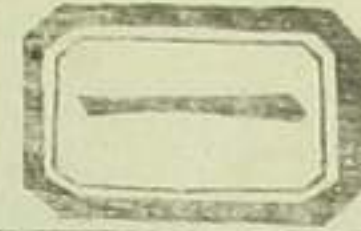
山二亭有人補綴
錦朝樓芳虎画
三遊亭圓朝作話

明治五壬申春



青盛堂梓

加昌



僕一日他招き國網の刀一節切船人といふ三題を速が克り
附會一が其笛竹乃節もななく一夜限ある棄小舟と思ひ
の外小愛玩と得扇拍子と艦拍子小例の鐵面皮であ
七しと上下一編侍人ふ著て視よとの変なりしが夫ハ面楯の
重荷をば看官の機嫌と取相へ及びもるやふに常住のそ
休そつと沖越し大先生にと辞したるを去年もあつたと
山一乗合さし山く亭。行道校汀を手傳やんと云せて多
大船小乗地で古刀やれあし。彼國網も附焼刃唯本職の
漆削が便莫遮書房ハ笛の音の利や非やと浮雲の形

壬申春

三遊亭圓朝記



○ 稻垣
小三郎



○ 小三郎云号音羽
後小丁子屋の遊女
音羽太夫

三
紅
石
五
二

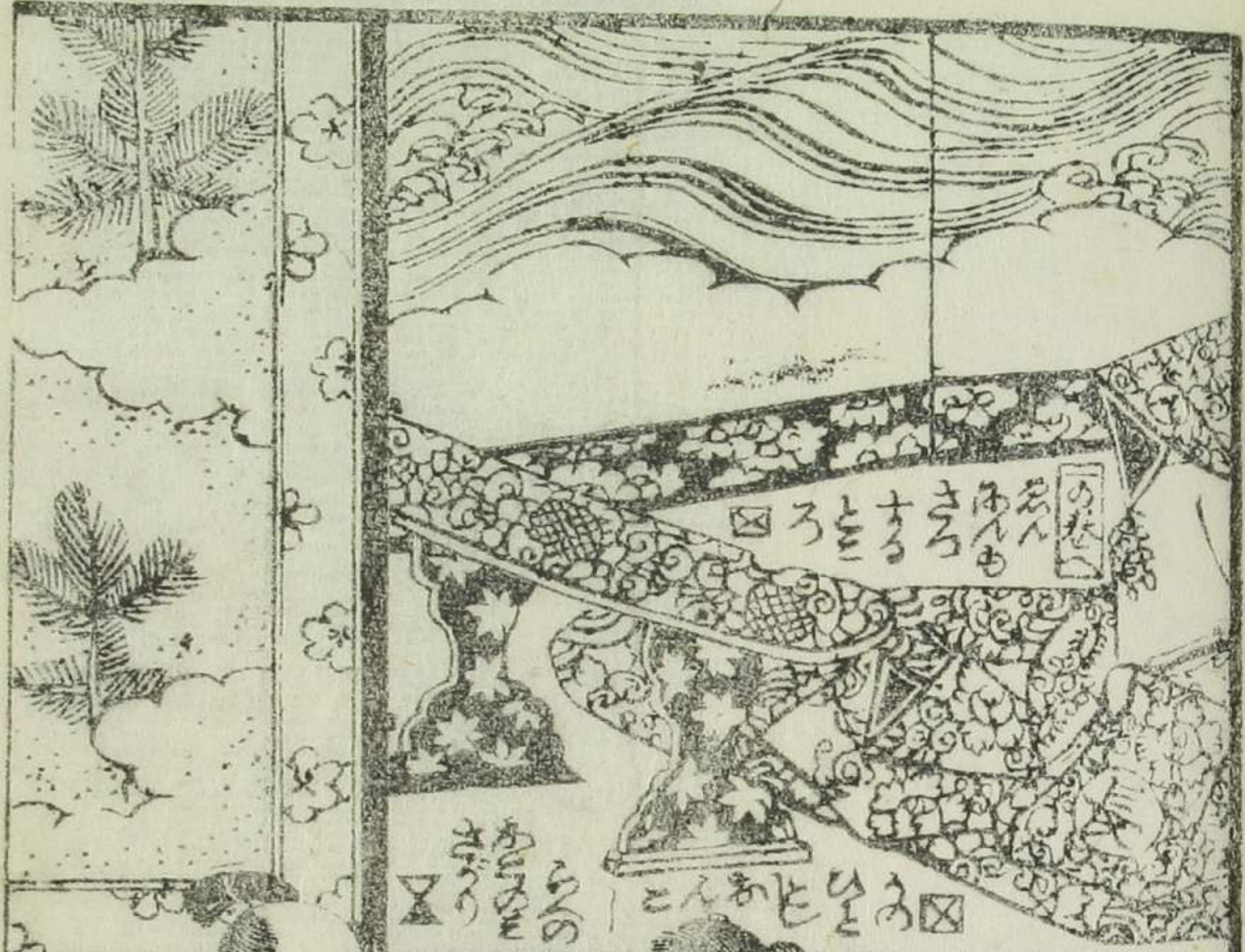
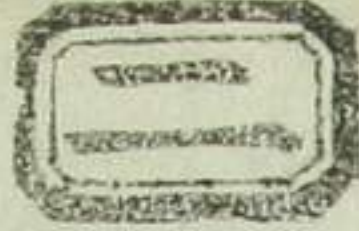


三十四

五

三十四

五



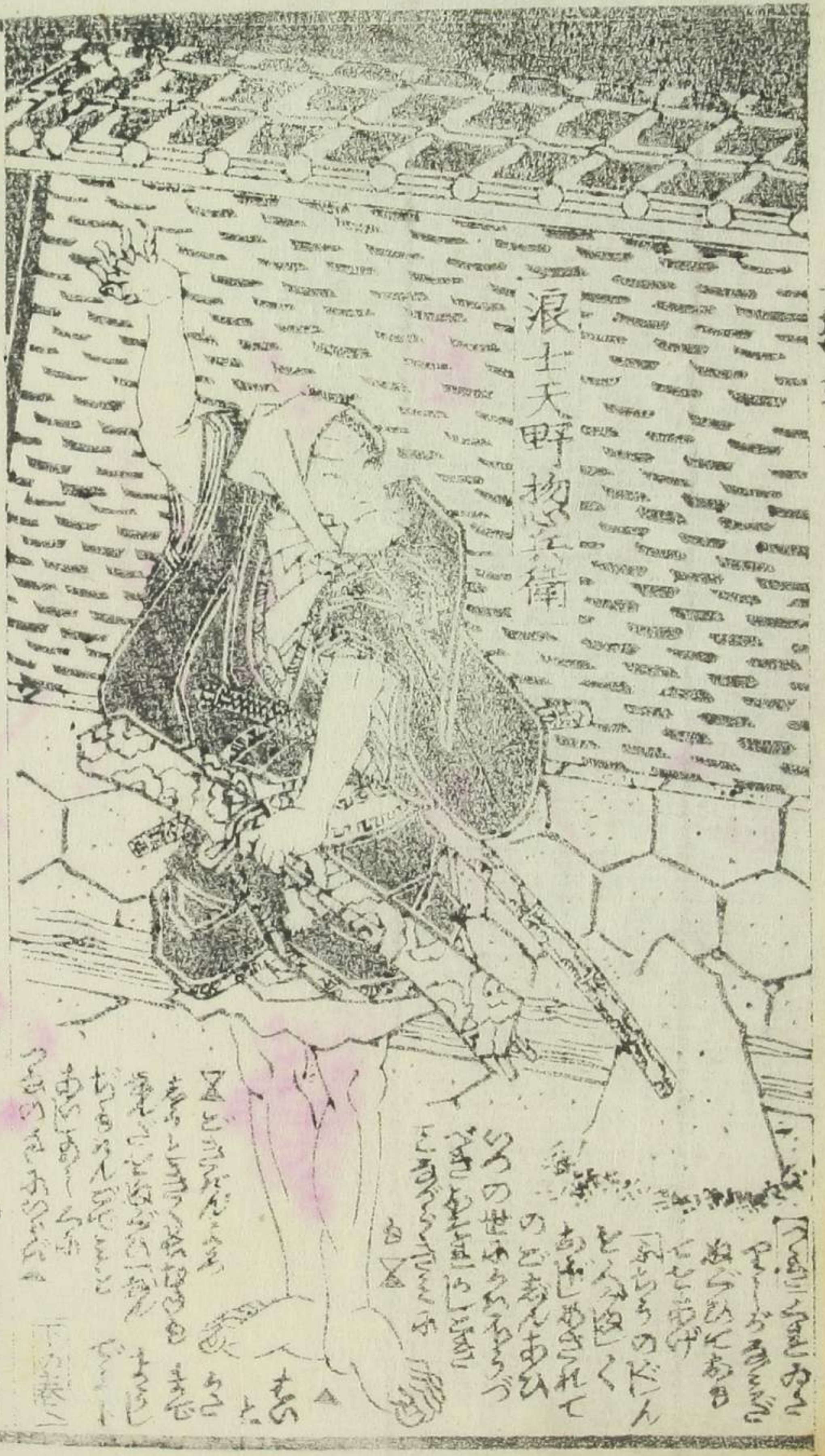
あゝあゝの
いんおとひる
あゝあゝの
いんおとひる
あゝあゝの
いんおとひる



あゝあゝの
いんおとひる
あゝあゝの
いんおとひる
あゝあゝの
いんおとひる



圓朝作話 有人補綴芳虎畫圖



松飾徳若譚

五編 六編 七編

假名垣魯文作 孟 芥 芳虎画

今朝春三組盃

二編 三編

山々亭 有人補綴 三遊亭 圓朝作話 錦朝楼 芳虎画

いそは節要

初編 十編

山々亭 有人作 歌川周重画

繪本太豊記

二編 三編

孟齋 芳虎画作

地本問屋 兩國廣小路 加賀屋吉兵衛板

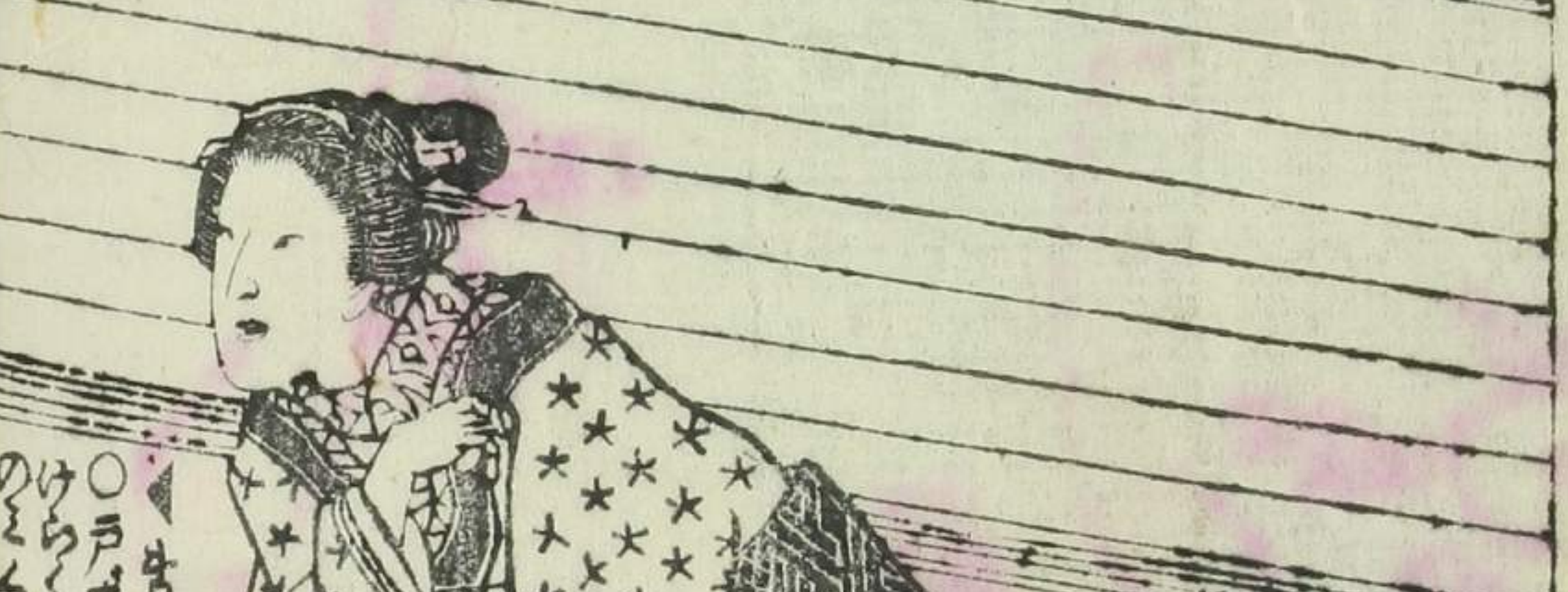
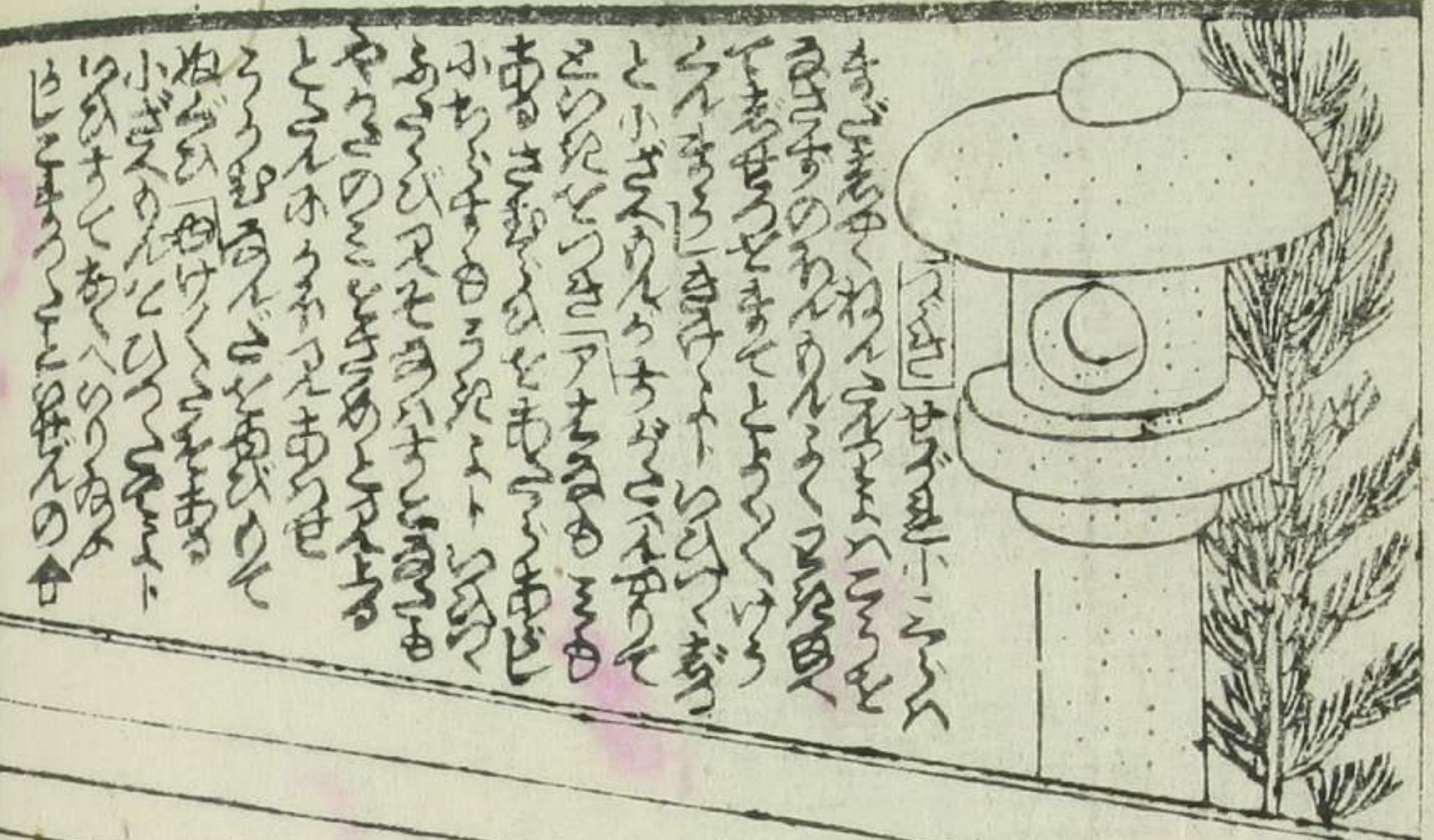


田
 有
 一人
 虎
 車

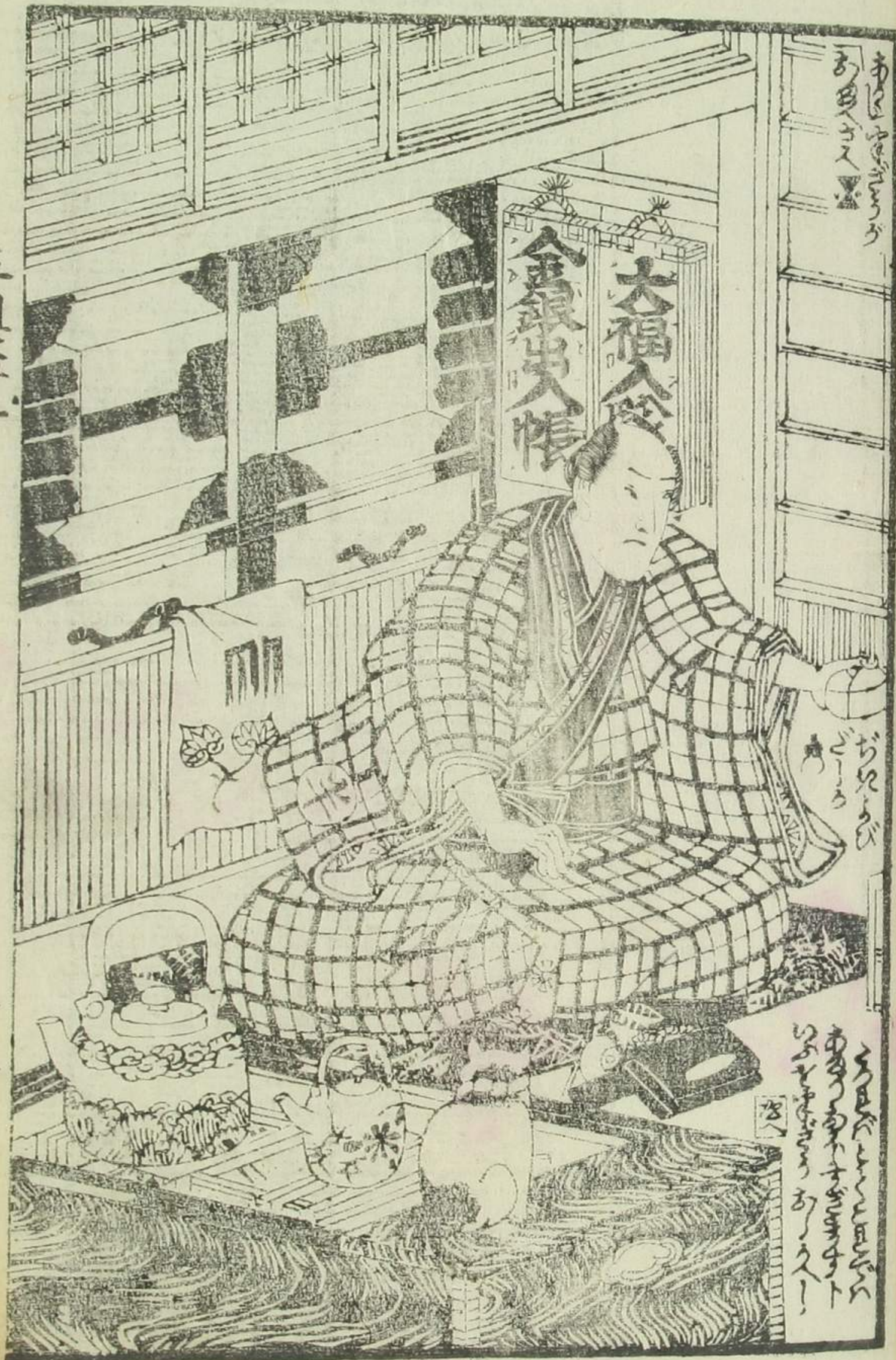
立
 申
 喜
 青
 成
 皿
 半
 棒

二編下





○月... (Vertical text columns in the lower section of the right page, including names and dates).



あつちやうのうら
あつちやうのうら
あつちやうのうら

あつちやうのうら
あつちやうのうら
あつちやうのうら

あつちやうのうら
あつちやうのうら
あつちやうのうら



あつちやうのうら
あつちやうのうら
あつちやうのうら

あつちやうのうら
あつちやうのうら
あつちやうのうら



あつてをさぐり
あひまひきぎの
くまをまわつて
くまをまわつて
まけきんお
なほ
さくら
とら
あつてをさぐり
あひまひきぎの
くまをまわつて
くまをまわつて
まけきんお
なほ
さくら
とら



あつてをさぐり
あひまひきぎの
くまをまわつて
くまをまわつて
まけきんお
なほ
さくら
とら



あつてをさぐり
あひまひきぎの
くまをまわつて
くまをまわつて
まけきんお
なほ
さくら
とら



あつてをさぐり
あひまひきぎの
くまをまわつて
くまをまわつて
まけきんお
なほ
さくら
とら

三月廿二

ついでいゆとのちめはきまらなくと
 ひつてもまじいけあてまらなくと
 むらたやる手ぞおまわめまら
 むらたのちやうちまらあつ
 さいまらたさあのつらえら
 さいまらたさあのつらえら
 ませぬうのちあまらあつ
 小まらたさあのつらえら
 そまらたさあのつらえら
 さいまらたさあのつらえら
 ちと
 まら
 まら
 まら



あつてまらたさあのつらえら
 むらたのちやうちまらあつ
 さいまらたさあのつらえら
 ませぬうのちあまらあつ
 小まらたさあのつらえら
 そまらたさあのつらえら
 さいまらたさあのつらえら
 ちと
 まら
 まら
 まら



あつてまらたさあのつらえら
 むらたのちやうちまらあつ
 さいまらたさあのつらえら
 ませぬうのちあまらあつ
 小まらたさあのつらえら
 そまらたさあのつらえら
 さいまらたさあのつらえら
 ちと
 まら
 まら
 まら

あつてまらたさあのつらえら
 むらたのちやうちまらあつ
 さいまらたさあのつらえら
 ませぬうのちあまらあつ
 小まらたさあのつらえら
 そまらたさあのつらえら
 さいまらたさあのつらえら
 ちと
 まら
 まら
 まら

あつてまらたさあのつらえら
 むらたのちやうちまらあつ
 さいまらたさあのつらえら
 ませぬうのちあまらあつ
 小まらたさあのつらえら
 そまらたさあのつらえら
 さいまらたさあのつらえら
 ちと
 まら
 まら
 まら

有人補綴
圓朝作話
芳虎畫圖

つぎとちわん... (vertical text columns on the left side of the illustration)



交來書

新增補西國奇談

廿一編 為永春水作

薄緑娘白浪

九編 假名垣魯文作

隅田川月と梅若

五編 柳亭種彦作
六編 山亭有人編次

繪本太閤記

三編 孟齋芳虎画作

地本問屋

西國廣小路

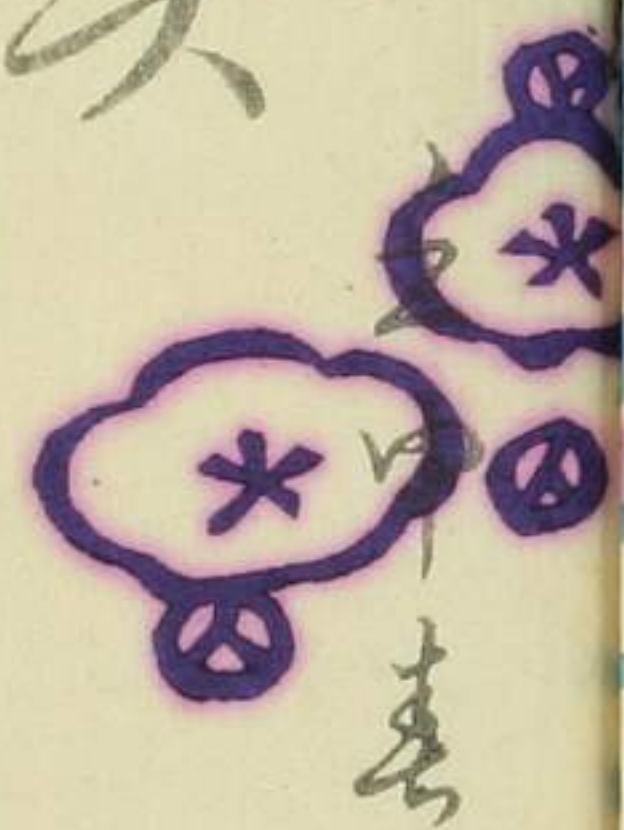
加賀屋吉兵衛板



三編上

三編上

女
羽
衣



吉成
文
彦



今新まきニツ経さしのりま
才ニ海上海中記

三好

系新治

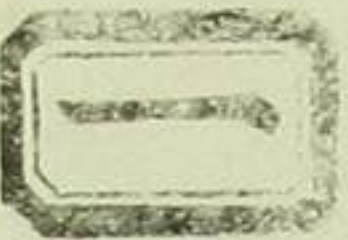
心々々々々々補

益富

よ〜席恵

五中

新板



余いぬる水月法招ぎ受て横漢又列〜有り人色又
告條の佳文と法妙〜の丹情といふ〜り成魚の極と
たろんもおこさく奉て此海の端書に摺自己拙案より
若むの字と免〜り〜り〜り

三遊亭中田新記

右憚以告條中上條

爺が紫を刈〜とよ山も冴り〜茶園〜あり〜アおん〜
おしと云門も埋りて素物茶葉の握飯も佳の枯り安南米で
煮る用もある形勢の首心就〜出〜れ物も怪談續物〜と
服前を換ひ〜児〜危り〜ヤ〜と云ぬの〜成〜彼板を寄が〜
たる鬼が〜高板〜歐〜殺巴亞細亞〜有〜る〜杯〜三〜子〜の〜

S.

三且五三



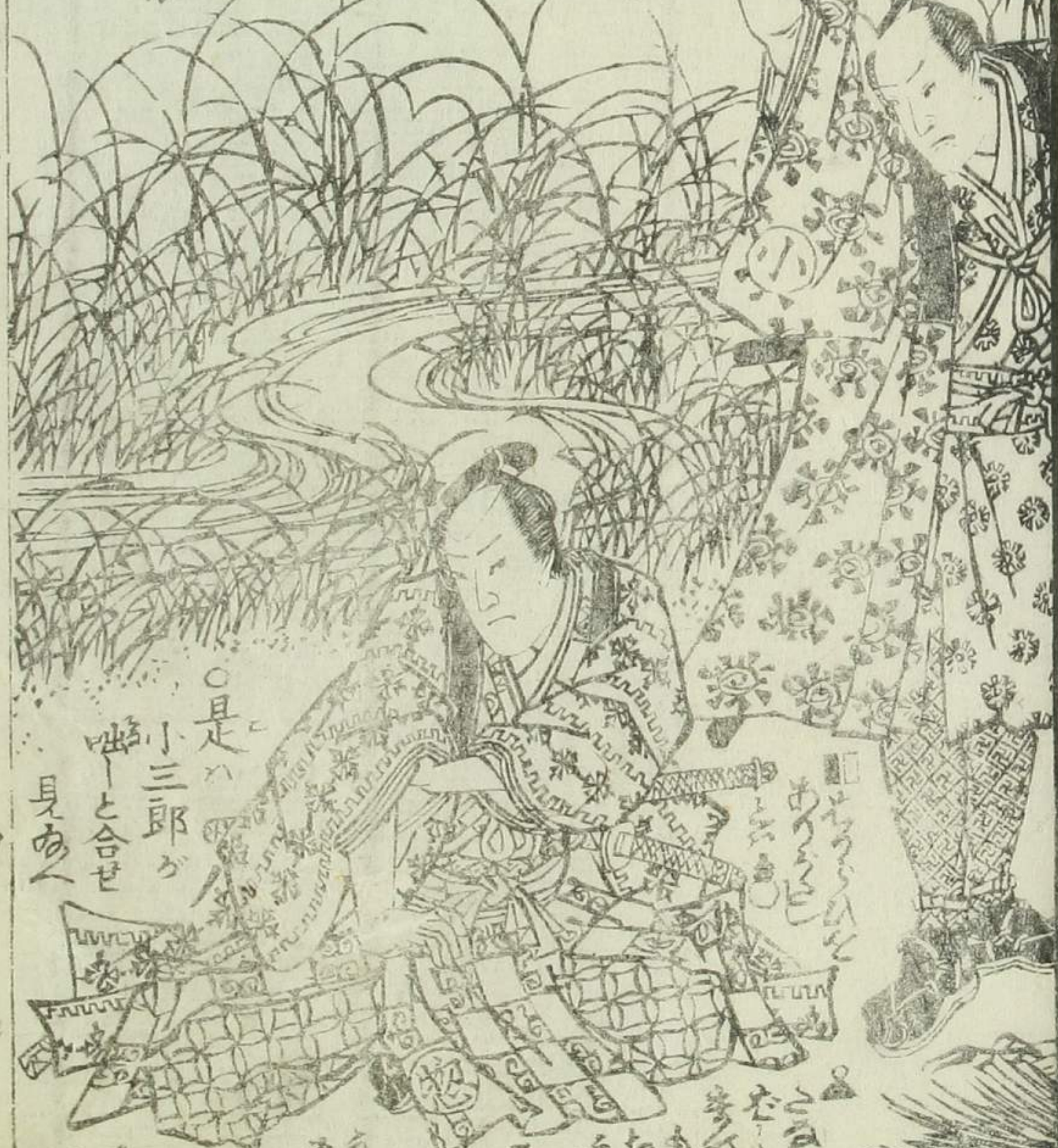
○於富
 松葉屋の
 抱若草



春母

浪士
 大野の
 總兵衛

是の
 夫と
 甘と
 めが
 とが
 のと
 田
 横



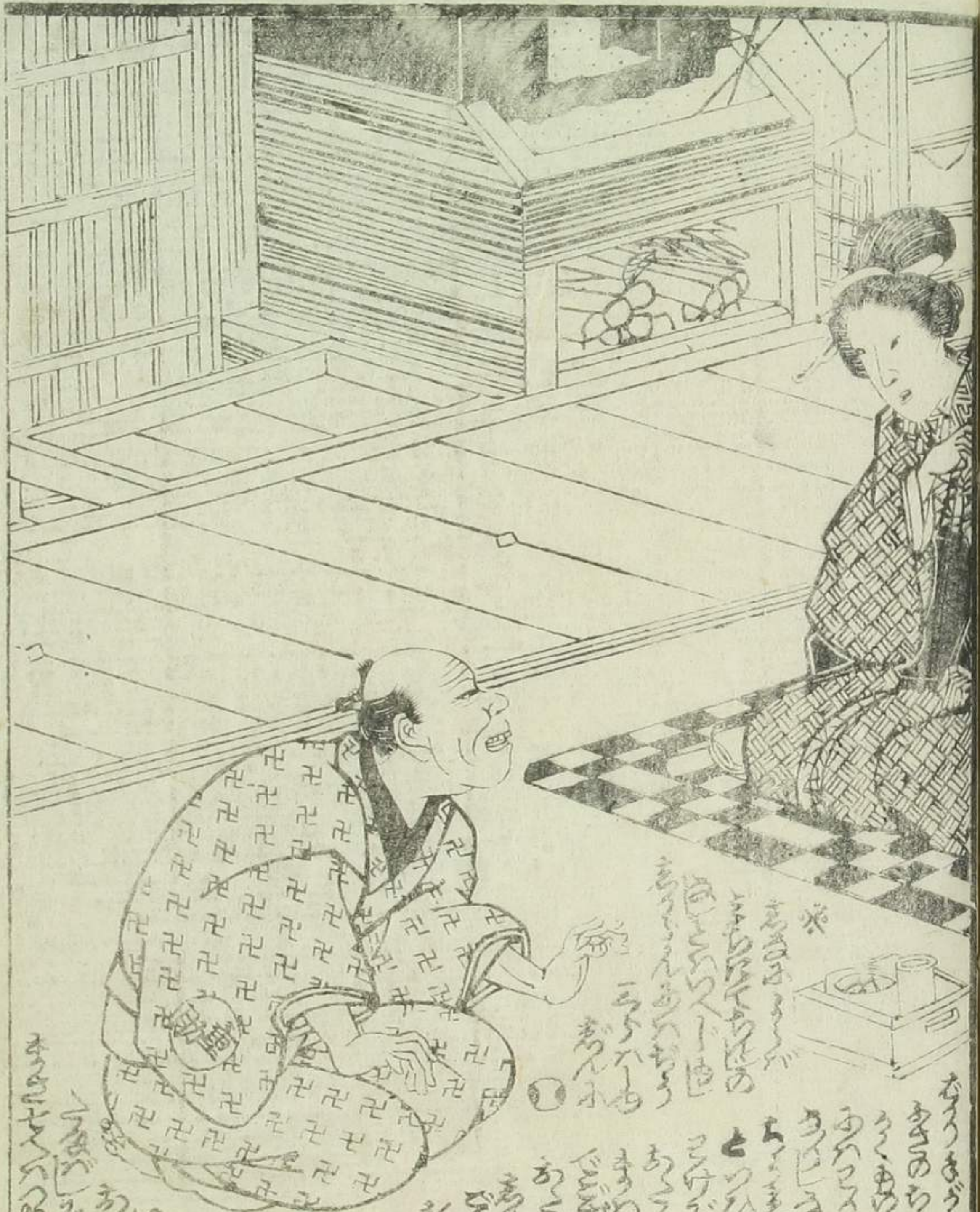
是ハ
 小三郎
 と合せ
 見あ
 大
 夜



大
 夜
 夜

三

三



〇かかれとま
 つらふあふあ
 とちふあふあ
 らげ大のせで
 らげふあふあ
 〇かかれとま
 つらふあふあ
 とちふあふあ
 らげ大のせで
 らげふあふあ

川野田川

五



〇かかれとま
 つらふあふあ
 とちふあふあ
 らげ大のせで
 らげふあふあ
 〇かかれとま
 つらふあふあ
 とちふあふあ
 らげ大のせで
 らげふあふあ

二五五三



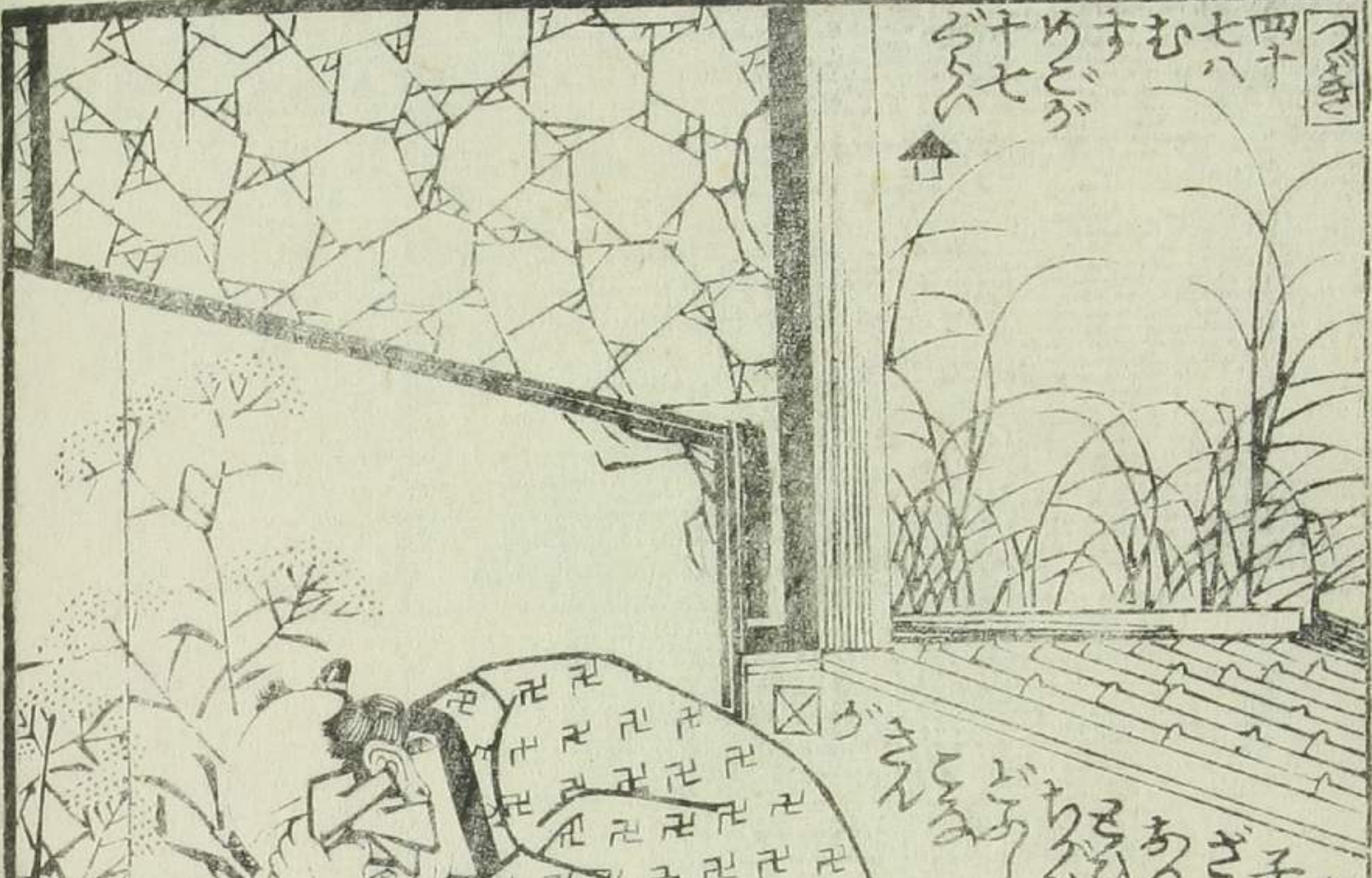
あんなにぞくぬけ
 せぬろそんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ



あんなにぞくぬけ
 のちひとりのあひんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ

あんなにぞくぬけ
 のちひとりのあひんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ

あんなにぞくぬけ
 のちひとりのあひんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ



あんなにぞくぬけ
 のちひとりのあひんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ



あんなにぞくぬけ
 のちひとりのあひんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ

あんなにぞくぬけ
 のちひとりのあひんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ

あんなにぞくぬけ
 のちひとりのあひんあそい
 ちのりしうとりのくわちうけ
 「あの上もくそのあちうさぬと
 うらひとやうがてうすまるとち
 ころんいとをたぐるのちのりひ
 ちんそあちうさぬのちひ
 あんげんてんあぬのちひ

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

有人補圓朝話芳虎画



松飾徳若譚

五編 六編 七編

假名垣魯文作 益 芥 芳 虎 画

今朝春二組盃

初編 二編 三編

山々亭有人補終 三遊亭圓朝作話 錦朝楼 芳 虎 画

いふは節要

初編 十編

山々亭有人作 歌川周重 画

繪本太豊記

初編 二編 三編

孟齋 芳 虎 画 作

地本問屋 兩國廣小路 加加貝屋吉兵衛板

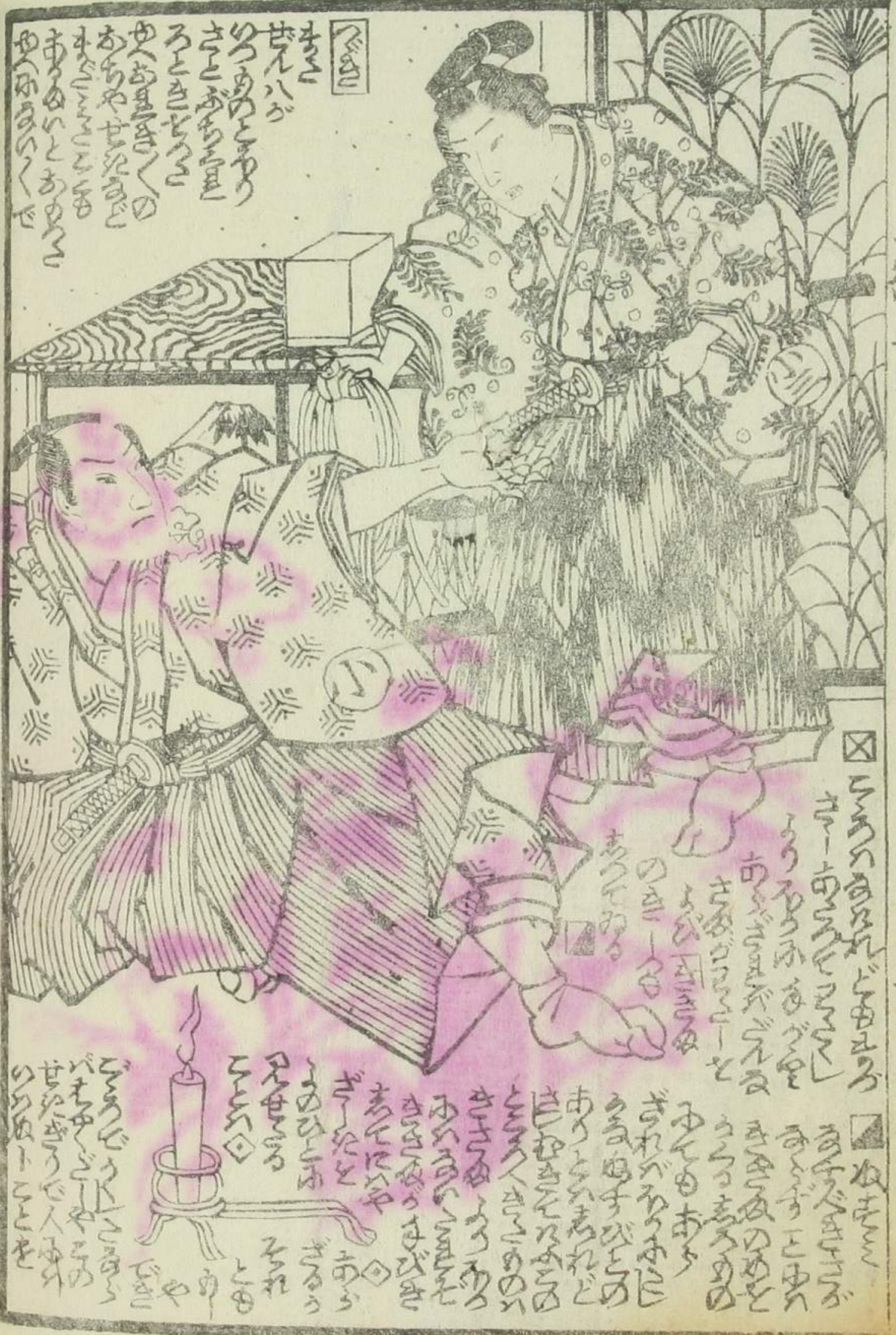
山
松橋
茶席
東
濃

不
松橋
松橋

女

三編下





あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...

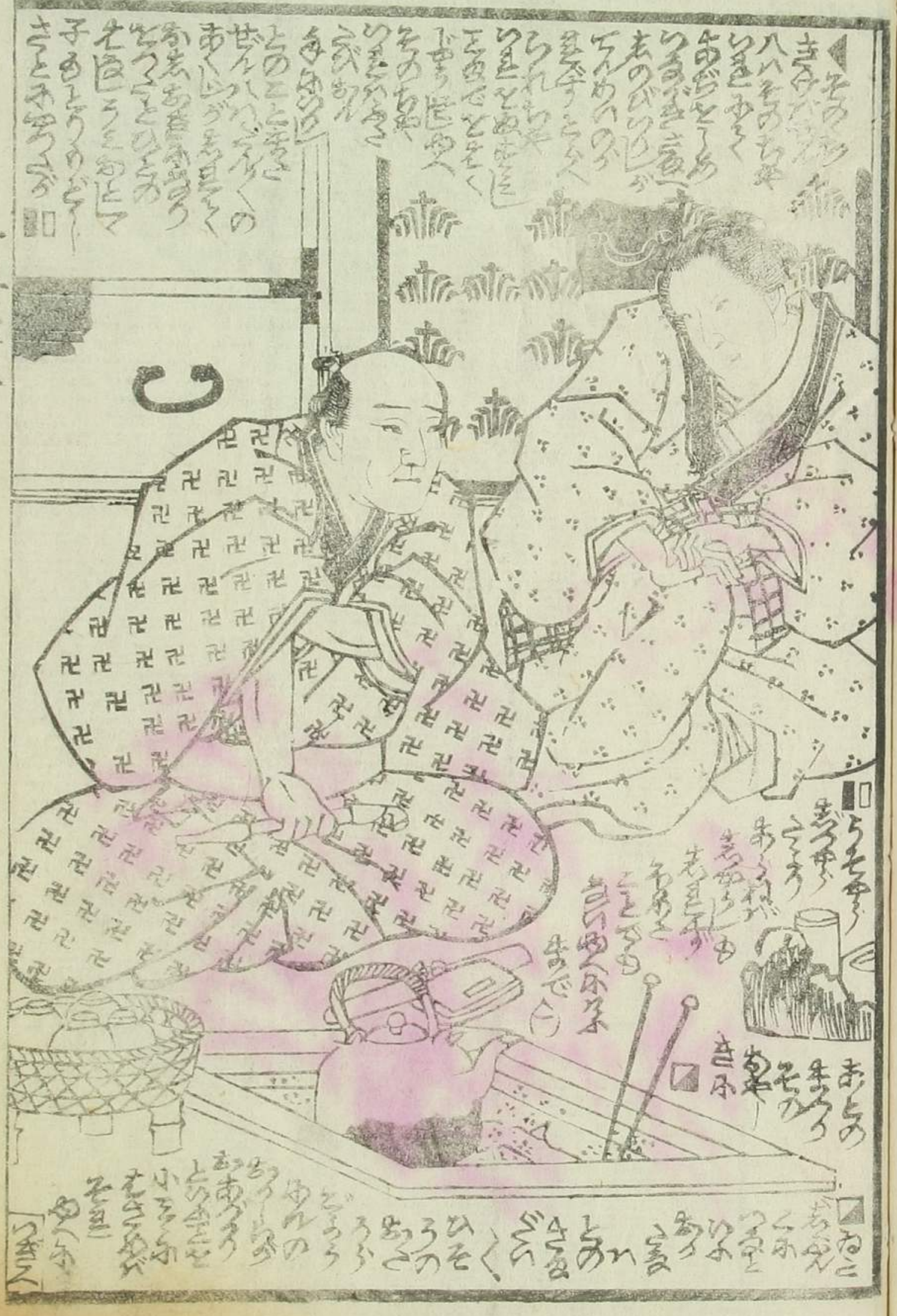
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...

あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...



あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...

あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...
あやうき...



三巻四十三

ついでに
あつた
おもしろ
うまい
なまら

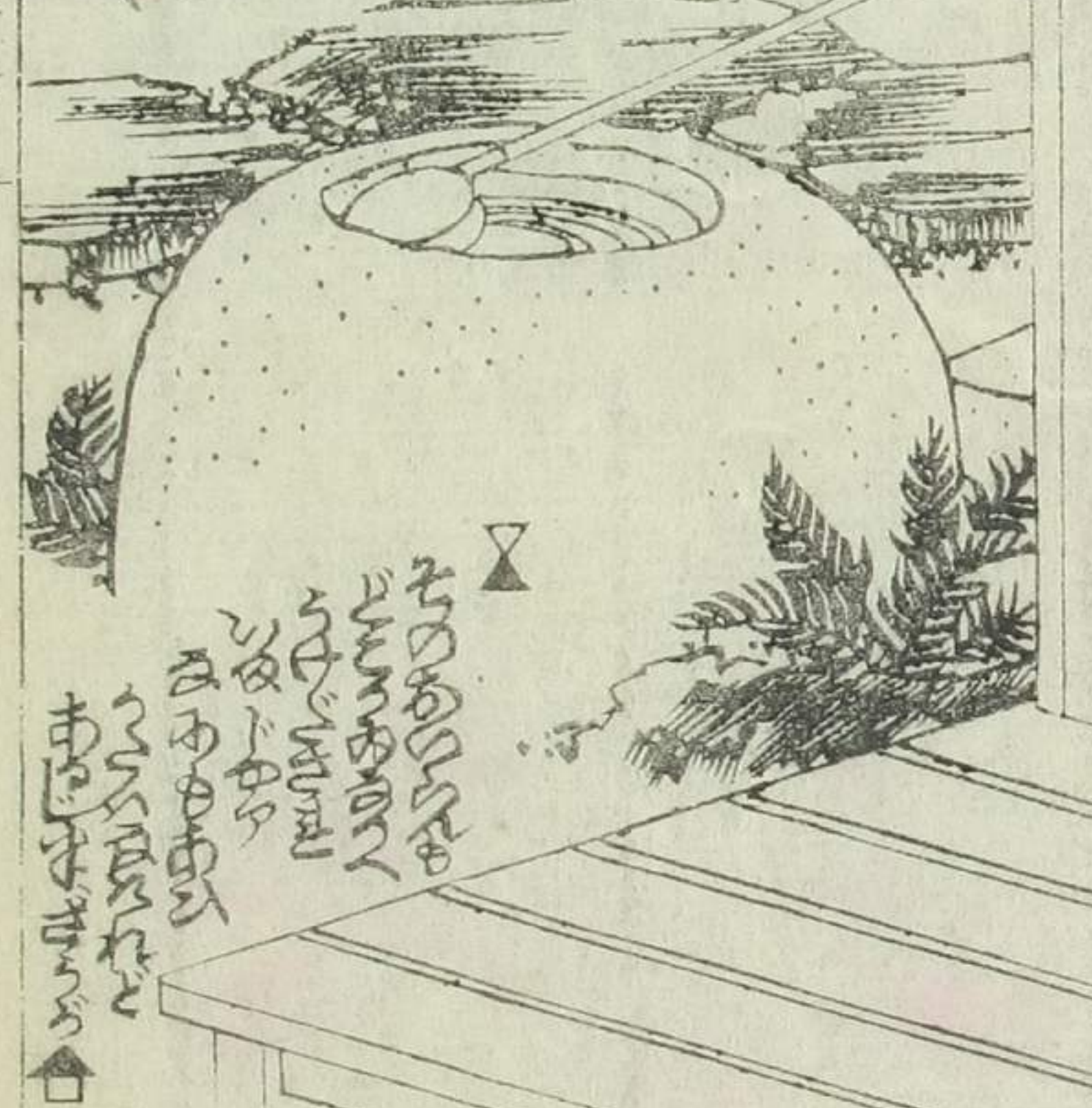


●きのこまき
おもしろ
なまら
うまい
あつた
おもしろ

○おひ
あつた
おもしろ

あつた
おもしろ
なまら
うまい
あつた
おもしろ

あつた
おもしろ
なまら
うまい
あつた
おもしろ



あつた
おもしろ
なまら
うまい
あつた
おもしろ

あつた
おもしろ
なまら
うまい
あつた
おもしろ
なまら
うまい
あつた
おもしろ

三巻四十三



あつちむすめとさびのあつちむすめ
 のひまわりさきさきさきさきさきさき
 正しそむゆさあやさき

あつちむすめとさびのあつちむすめ
 のひまわりさきさきさきさきさきさき
 正しそむゆさあやさき



あつちむすめとさびのあつちむすめ
 のひまわりさきさきさきさきさきさき
 正しそむゆさあやさき

あつちむすめとさびのあつちむすめ
 のひまわりさきさきさきさきさきさき
 正しそむゆさあやさき



山崎の人のあつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

あつていふる事

山崎

あつていふる事

あつていふる事



此の村の
 名は丸
 橋といふ
 昔の村
 には丸
 橋の村
 といふ
 村あり
 けり
 今も
 丸橋
 の村
 あり
 けり

圓朝話

圓朝の歌
 圓朝の歌
 圓朝の歌
 圓朝の歌
 圓朝の歌
 圓朝の歌
 圓朝の歌
 圓朝の歌

有人補芳虎画

有人補
 有人補
 有人補
 有人補
 有人補

新增補西國奇談

廿編 為永春水作
 止編 孟齋芳虎画

薄緑娘白浪

九編 假名垣魯文作
 十編 錦朝樓芳虎画

隅田川月と梅若

五編 柳亭種彦作
 六編 山亭有人編次
 孟齋芳虎画

繪本太閤記

三編 孟齋芳虎画作
 マテ

地本問屋

西國廣小路

加賀屋吉兵衛扱



芳川集